2015 年 12 月 1 日発行
一般社団法人 日本顎顔面補綴学会
Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics

Newsletter No. 22
Maxillofacial Prosthetics

発行人　鱒見進一　　編集　広報委員会

事務局　〒135-0033　東京都江東区深川 2-4-11　一ツ橋印刷（株）　学会事務センター内
Tel：03-5620-1953　Fax：03-5620-1960
E-mail：max-service@onebridge.co.jp

第 33 回総会・学術大会案内

大会長　**小野　高裕**
（新潟大学大学院）

会　期：平成 28 年 6 月 2 日（木）～ 4 日（土）
会　場：新潟医療人育成センター
　　新潟市中央区旭町通一番町 757 番地
　　（新潟大学旭町キャンパス内）
事務局：新潟大学大学院医歯学総合研究科
　　包括歯科補綴学分野

来る 2016 年 6 月 2 日（木），3 日（金），4 日（土）の三日間，第 33 回の総会・学術大会を新潟の地で開催させて頂くことになりました．本学会に育てていただいた私にとりまして，大きなよろこびでありますとともに，責任の重さを感じております．長い歴史を持つ本学会において，過去 32 回の学術大会・総会，またその前の研究会時代を含めて新潟では初めての開催となります．広い医療圏が控えるこの地で，全国からお集まりいただいた皆様とともに，顎顔面補綴医療の重要性を示すとともに，新しいビジョンを共有できる，そんな機会になればいいなあと，堀準備委員長ともども切望しております．

会場は，医学部・歯学部が所属する新潟大学旭町地区に平成 27 年度に設置された新潟医療人育成センターを用意しました．お時間がありましたら，全面改修した歯学部や医歯学総合病院もご覧いただければと存じます．

さて，顎顔面補綴は言うまでもなく多くの専門職種の連携によるリハビリテーション医療であり，高度な頭頸部がん治療もこれなくしては医療として完結しません．そこでは，患者さんの機能障害を客観的に評価することに重点を置いて，研究や臨床を行う必要があります．そういった観点から，今回は特別講演を新潟大学医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野の井上　誠教授にお願いしました．嚥下機能研究から摂食嚥下リハビリテーションの臨床まで，最先端の幅広い学識に裏付けられた刺激的なご講演を頂けるものと楽しみにしております．

研究発表は，本学会の伝統である充実した質疑応答の時間を確保しつつ，多くの研究者の方にご発表頂くために，前回大会に引き続き口頭発表だ

けでなくポスター発表の場を設けるとともに，ポスター発表の演者の方にもすべての参加者に内容をアピールしていただく場を作ろうと考えております．また，初めての試みとして，一般口演の主要なセクションごとにKeynote Lectureを設けます．この領域のベテランの方々にお願いして最新情報を紹介して頂く予定です．さらに，第21回教育研修会は「長期経過症例から考える（学ぶ）」という興味深いテーマで企画されており，初学者にも有意義な研修の場になることと期待しております．

これから半年余りの間，学会本部や諸先生方のご指導を仰ぎながら医局員一同精一杯準備して，爽やかな海風が吹く初夏の新潟へ，皆様のお越しを心よりお待ちいたしております．そしてもちろん，新潟のおいしい日本酒や食材の用意も怠りません．どうか，期待してお越し下さい！

第32回総会・学術大会報告

平成27年6月18日（木）～20日（土），東京医科歯科大学M＆Dタワー2階鈴木章夫記念講堂において，谷口　尚大会長（東京医科歯科大学（TMDU）大学院）のもと，第32回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会が開催された．

19日には特別講演Ⅰが，20日には特別講演Ⅱと第20回教育研修会が行われ，2日間で一般口演25題，ポスター発表22題，認定医ケースプレゼンテーション2題が発表された．

大会テーマ「温故知新」にちなんで質疑応答時間が長く設定され，どのセッションも熱くディスカッションが交わされた．また，今回初めてポスター発表が導入され，会場は大盛況であった．

ポスター発表風景

特別講演Ⅰ

私のライフワークにおける半側欠損

田中　貴信先生
愛知学院大学名誉教授

学術大会1日目の午後には，愛知学院大学名誉教授田中貴信先生による特別講演Ⅰが行われた．1976年に開催された，日本顎顔面補綴研究会第1回の例会で世話人をお努めになられて以降，計13回にわたり，世話人，総会長を歴任され，長きにわたり日本顎顔面補綴学会を牽引されてきた田中先生の特別講演とあり，参加者一同にとって大変感慨深い講演となった．

講演の中では，顎顔面補綴研究会発足の背景や当時の問題点，研究会での様子などが語られたほか，分割印象や可動性顎義歯などの貴重な症例の供覧などがなされた．また，咬合器や耳介印象用治具など，田中先生がこれまでに成し遂げられた臨床器具や術式の開発などについても触れられた．最後には今後の顎顔面補綴治療に対する貴重な提言もいただき，現役会員にとっては貴重なお話しの数々であり，身の引き締まる思いであった．講演の最後には谷口　尚大会長より感謝状の贈呈があった．　（広報委員　吉岡　文）

特別講演Ⅱ

骨造成のための新しい戦略

春日井昇平先生
東京医科歯科大学（TMDU）大学院
インプラント・口腔再生医学分野教授

春日井先生は歯科薬理学をご専門に長い間基礎系の研究をされ，その後インプラント外来での臨

床にも携わっているという異色の研究者で，その経緯や御茶ノ水の聖橋のお話から楽しく講演が始まった．骨結合型インプラントを用いた補綴治療において骨が十分存在しない症例に対する骨造成について現在までの骨造成法の流れや再生医療のトレンド「再生させたい部位に再生に必要な 3 つの要素である細胞，シグナル分子，足場のうち一つあるいは複数の要素をくみあわせることで体外から適用する」ことについて大変わかりやすくご説明下さった．しかし未だに効果的，簡便で安全，経済的な方法が確立されておらず，その達成のために開発中の新しい 4 つの方法，新しいナノゲル膜を用いた GBR 法，移植材を用いない上顎洞底挙上術，骨膜挙上と拡張型 GBR を用いた骨造成法についてご紹介頂いた．これらの方法により骨造成の高い成果をあげており，今後の顎顔面補綴治療において骨造成の明るい未来を感じることができた．　（広報委員　大木明子）

第 20 回教育研修会

テーマ：中咽頭部への補綴的アプローチ

今回の教育研修会のテーマは，「中咽頭部への補綴的アプローチ」だった．第 20 回日本顎顔面補綴学会学術大会で「軟口蓋欠損に対する機能回復」と題してシンポジウムが組まれたが，それから早 12 年の歳月が流れた．その間，遊離皮弁による再建と顎補綴・鼻咽腔補綴については，さまざまな議論がなされ，その精度は格段に向上した．

左から講師の臼井先生，隅田先生，舘村先生

まず，鼻咽腔補綴を理解するために，中咽頭欠損に対して行われる再建手術について，私関谷が紹介させていただいた．再建なし，外科的補助，軟組織再建の各々の場合を提示して，補綴的な方向性を提示した．

V-P Function 研究の第一人者である一般社団法人 TOUCH 代表･舘村卓先生の機能論では，「なぜあなたの作るスピーチエイドや PLP は効果がないのか？」と衝撃的な表題とともに，軽快な話術で聴衆は引き込まれた．欠損補綴というイメージでなく VPI（velopharyngeal incompetence）に関わる解剖・生理を考慮した鼻咽腔補綴を行うべきであると熱く語られた．

東京医科歯科大学・隅田由香先生は，数多くの口唇口蓋裂治療で得られたオーソドックスな鼻咽腔補綴の理論と実践を基礎から懇切丁寧に，まるで学校の先生のようにやさしくご教示くださった．会員は十分に理解を得られたに違いない．

天蓋開放型のバルブを駆使した鼻咽腔補綴を行う，うすい歯科顎顔面補綴治療部・臼井秀治先生の匠の技（印象や技工工程など）は，会員にとって驚くべき成果を提示した．こうした技術の伝承は，学会として大切なことであり，私もこの技術を習得し継承することを心に誓った．

時間に限りがあったため，教育研修会という趣旨で技術的な質問に限り，ディスカッションは不完全燃焼な感もあったが，無事閉幕できた．ご協力ありがとうございました．　（座長　関谷秀樹）

関連学会報告

第 39 回日本頭頸部癌学会
第 4 回アジア頭頸部癌学会

4th Congress of ASHO（当該学会 HP より転用）

2015 年 6 月 3 ～ 6 日の 4 日間，神戸国際会議場にて The Joint Meeting of 4th Congress of

Asian Society of Head and Neck Oncology (ASHNO) and 39th Annual meeting of Japan Society for Head and Neck Cancer (JSHNC) が行われた．本学会は日本頭頸部癌学会とアジア頭頸部癌学会の共催学会であり，日本はもとより，フィリピン，インド，韓国，台湾，シンガポール，インドネシア，バングラディシュ，などのアジア各国の他，米国，フランス，サウジアラビア，イスラエル，カナダなど世界各国から参加者が訪れた．

大会初日の教育セミナーに続き，2日目にはKeynote Lecture が行われたほか，咽頭癌や頭蓋底癌，再建，口腔癌，放射線化学療法など，各トピックに分かれたシンポジウムが行われた．また，今回の学術大会ではUnder40 シンポジウムとして11のテーマに分かれた若手のためのシンポジウムも行われた．さらには305題の一般口演，230題のポスター発表もあり，大変な盛会となった．次回の第40回日本頭頸部癌学会は2016年6月9～10日に埼玉県の大宮ソニックシティにて開催予定である．

（広報委員　吉岡　文）

第21回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

まだ残暑厳しい2015年9月11・12日に，国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都にて昭和大学医学部リハビリテーション学講座水間正澄教授を大会長として第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が開催された．テーマは「広がりゆくリハビリテーションニーズの中で摂食嚥下を考える」とのことで，6300名を超える様々な職種の先生方が集って摂食嚥下リハビリテーションに関する熱いディスカッションが繰り広げられた．舌接触補助床などの補綴装置を用いたリハビリテーション，咀嚼機能回復の重要性をテーマとした発表も散見され，リハビリテーションニーズの多様性が感じられた大会だった．来年は，新潟大学の井上誠教授（第33回顎顔面補綴学会では特別講演予定）を大会長として，9月23・24日に顎顔面補綴学会と同じ新潟市で開催される予定である．　（広報委員　堀　一浩）

第17回 日本口腔顎顔面技工研究会学術大会

2015年9月26日（土）　日本口腔顎顔面技工研究会学術大会が広島大学霞キャンパスで開催された．17回目を迎えた今大会は“臨床と科学の調和”をテーマに特別講演2題，会員による宿題口演，シンポジウム，一般口演11題で，エピテーゼ症例やPLP，顎間牽引装置など技工関係だけでなく“バイオフィルム”や“咀嚼嚥下の解説”，“3D技術の臨床応用”といった普段の技工業務とは異なる知見を得られ，会場からは質疑応答が活発に行われた．本研究会は大学や公立病院勤務の技工士を中心として発足した会だが，近年では若手技工士の参加も増え，さらに今回は義肢装具士などの参加もあり他業種との交流も徐々に広がっている様に感じられた．

翌27日（日）には昨年に続き義眼ストラップ製作のワークショップが開催され，今回は虹彩のペインティングに的を絞っての集中講義となった．

ワークショップ

次期学術大会は2016年12月3日（土）　徳島大学で開催予定である．（広報委員　宮本哲郎）

5th Congress of European Society for Swallowing Disorders

2015年10月1日～3日に5th Congress of European Society for Swallowing Disordersがスペインのバルセロナで開催された．嚥下障害をメインテーマとする学会で，多くはヨーロッパからの参加者だった．北米にはDysphagia Research Society（DRS）という学会があるが言語聴覚士の参加が多いDRSと比べ，本学会の特徴は医師の割合が多く半数に近いとのことであ

る．今回は1日のプレコングレスセミナーに続いて2・3日に10題の招待講演の他，40題の口演発表，さらに100題以上のポスター発表が行われ，活発なディスカッションがくり広げられた．今回の学会では，あまり口腔腫瘍術後の嚥下障害に関する発表は多くなかったが，これまでほとんど海外の学会では見られなかった介護食に関する発表が目につき，海外でも介護食における規定を作る方向にある様子だった．来年はイタリアのミラノで開催予定であり，再来年にはESSDと北米のDRS，日本摂食嚥下リハビリテーション学会との合同学会が企画されている．

（広報委員　堀　一浩）

5th Congress of ESSD 会場風景

第60回（公社）日本口腔外科学会総会・学術大会

記念すべき第60回大会の日本口腔外科学会が，岐阜大学大学院医学系研究科病態制御学講座口腔病態学分野教授・柴田敏之大会長主管で10月16日～18日に名古屋国際会議場で開催された．

一般演題数は1000演題を超え，ミニレクチャー・ビデオレクチャー60題や教育講演，日韓30周年記念講演，第4回日独セッションをはじめとする6つのシンポジウムと4つのワークショップとかなりのボリュームであった．

第4回日独セッションでは，Freiburg大学のRainer Schmelzeisen教授の「歯槽部再建のState of the Art and Perspectives」を基調講演として，各演者が腓骨皮弁による再建をはじめとする骨性再建とインプラントによる口腔機能回復について6演題，日独両演者から発表があった．筆者は，手術留学にてFreiburg大学を訪問したことがあり，Schmelzeisen教授とシンポジウム終了後に，当時の思い出を語り合った．

一つのワークショップでは，連携する他の学会と作成された診療ガイドラインなどが披露された．こうした場を利用して，口腔外科との学際的学会である本学会からも顎義歯やPAP，ISOなどのガイドラインやその実際を披露し，口腔がん手術後の口腔機能回復を口腔外科医へ伝達することも必要と思われた．

ミニレクチャーでは，口唇口蓋裂に対するHotz床やPLP・スピーチエイドに対する講演があった．これをうけて筆者は，学際連携委員長の高橋哲先生にISOや顎補綴の導入などをこうしたミニレクチャーで発表することで，口腔外科医の本学会入会を促していきたいと提案した次第である．

日韓記念祝賀会を含め，4日間の日程はあっという間に幕を閉じた．　（広報委員　関谷秀樹）

筆者（左）とRainer Schmelzeisen教授（右）

関連学会のご案内

●第34回日本口腔腫瘍学会・学術大会
日　程：2016年1月21日（木）～22日（金）
大会長：藤内　祝（横浜市立大学）
会　場：横浜市開港記念会館（横浜市）
問合せ：横浜市立大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能制御学

●第26回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会
日　程：2016年1月28日（木）～29日（金）
大会長：内藤健晴（藤田保健衛生大学）
会　場：名古屋国際会議場（名古屋市）
問合せ：藤田保健衛生大学医学部　耳鼻咽喉科学教室

2015 年 12 月 1 日発行
一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Newsletter No. 22
Maxillofacial Prosthetics

●日本口腔インプラント学会
第 32 回九州支部学術大会
日　程：2016 年 1 月 30 日（土）～ 31 日（日）
大会長：後藤昌昭（佐賀大学）
会　場：佐賀市文化会館（佐賀市）
問合せ：佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座

●日本口腔インプラント学会
第 35 回関東・甲信越支部学術大会
日　程：2016 年 2 月 13 日（土）～ 14 日（日）
大会長：渡沼敏夫(NPO 法人埼玉インプラント研究会)
会　場：京王プラザホテル（新宿区）
問合せ：日本コンベンションサービス株式会社内運営事務局
E-Mail：jsoi35kk@convention.co.jp

●第 39 回日本嚥下医学会総会・学術講演会
日　程：2016 年 2 月 12 日（金）～ 13 日（土）
大会長：越久仁敬（兵庫医科大学）
会　場：大阪国際交流センター（大阪市）
問合せ：株式会社プロコムインターナショナル
E-Mail：enge39@procomu.jp

●第 70 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会
日　程：2016 年 4 月 16 日（土）～ 17 日（日）
大会長：喜久田利弘（福岡大学）
会　場：福岡国際会議場（福岡市）
問合せ：株式会社日本ジーニス

● 11th Biennial Meeting of the ISMR
日　程：2016 年 5 月 5 日（木）～ 8 日（日）
開催地：セルビア ベオグラード
問合せ：ISMR Administration
ismr@res-inc.com

●第 40 回日本口蓋裂学会総会・学術集会
日　程：2016 年 5 月 26 日（木）～ 27 日（金）
大会長：古郷幹彦（大阪大学）
会　場：ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター（大阪市）
問合せ：大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室

●一般社団法人日本老年歯科医学会
第 27 回学術大会
日　程：2016 年 6 月 18 日（土）～ 19 日（日）
大会長：市川哲雄（徳島大学）
会　場：アスティとくしま（徳島市）
問合せ：徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔顎顔面補綴学分野

コンテンツ

第 33 回学術大会案内 …… 1
第 32 回学術大会報告 …… 2
関連学会報告 …… 3
関連学会のご案内 …… 5

皆様のご意見をお寄せください.

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会
委員長　松山美和
委　員　大木明子，関谷秀樹，中島純子，堀　一浩，宮本哲郎，吉岡　文
E-mail：max-service@onebridge.co.jp